

15th APHS conference参加記

自治医科大学附属さいたま医療センター 一般・消化器外科 前本 遼

この度、JHS の Scholarship を得て、2019 年 10 月 3 日～5 日にインドネシアのバリ島で開催された第 15 回 Asia Pacific Hernia Society (APHS) Conference に参加させて頂きました。今回が初めての国際学会参加でしたので、日本の学会との違いに驚きました。演題登録の締め切りは開催日の約 2 ヶ月前までであり、演題採択の通知は学会まで 1 ヶ月のところで通知されました。スライド登録の URL もなかなか届かないので、事務局に問い合わせ、3 週間前にメールが届き、自分の発表ポスターを登録しました。

やや不安も残る中、バリに入りました。開催場所はバリ島屈指のリゾートエリアである Nusa Dua でしたので、非常に快適でした。会場は思ったよりもコンパクトであり、大きな会場が 2 部屋 (仕切りで中央を区切っている) と小さめの会場が 6 部屋のみでした。参加者は中国、インドが目立ち、次いでホスト国であるインドネシア、といった印象でした。セッションとしては鼠径ヘルニアに対するアプローチ法や嵌頓症例に対する対応などが活発にディスカッションされており、腹壁癒痕ヘルニアについても MILOS、eTEP、robotic TAR などの発表がありました。

個人的に驚いたのが、腹壁癒痕ヘルニアを減らすための DURAMESHTM に関する発表でした。縫合糸は圧が高まれば組織を切る道具になってしまう、という発想から、糸の代わりにメッシュを短冊のように切ったものを用いて筋膜を縫合すれば、圧が高まっても組織が切れにくい、という発想で、それを商品化したものが DURAMESHTM のことでした。まだ認可されていないため、臨床研究の段階ですが、認可されれば筋膜閉鎖の方法が大きく変わる可能性を秘めたものではないかと思いました。

さて、自分の発表は E-Poster でした。3 台のモニターを参加者が自由に閲覧し、質問や意見があれば web で記載し、時間を合わせてディスカッションする、というものだったと思いますが、自分の E-Poster には何のコメントもありませんでしたので、本当にそういう場があったのか不明です。

Gala dinner の際には各カテゴリーの優秀演題が表彰されたり、これまでの APHS の活動に尽力された先生方が表彰されたり、インドネシアの音楽を演奏したりとバリエーションに富んでいました。音楽の volume がかなり大きく、なかなかゆっくり話しをする時間がなかったのが残念ですが、会期中に Bariatric surgery で世界のトップリーダーである笠間和典先生や、第 17 回 JHS 学術集会の会長を務められた蜂須賀丈博先生とご挨拶できたことは、自分にとっての励みになりました。

来年は上海で開催予定とのこと。経済的にも学術的にも中国の人のエネルギーには圧倒されがちですが、日本からも情報発信ができるように、何か話題を見つけて参加したいと思います。

この度はこのような機会を与えて頂きました国際委員会委員長の吉田和彦先生、理事長の早川哲史先生をはじめ関係各位に深謝するとともに、今後も JHS の発展に微力ながら努力して参りたいと思います。